

# 名城大学 環境・安全ガイド 2018

*Meijo University*  
*Environmental & Safety*  
*Guide*  
2018



## 環境教育を実践する 「ICTスマート大学」を 目指して



名城大学 学長 吉久 光一

本学は、2016年4月に開学90周年を迎え、ナゴヤドーム前キャンパスを開設し、9番目の学部として新たに外国語学部を設置しました。2017年4月には同キャンパスに都市情報学部・研究科と人間学部・研究科を移転し、本学の「地域連携」と「国際化」をけん引する、3学部が融合した新たな教育研究拠点として創造型のキャンパスの構築を目指しています。

この新たなキャンパスにおいては、特に「ICT(情報通信技術)スマート大学」の実現に重点を置き、教育支援はもちろんのこと、学生支援、研究支援、業務支援等を推進していきます。近年、「スマートシティ」という言葉をよく耳にします。これは「ICTによりエネルギーを効率的に活用し、人々が快適に生活する街」を指していますが、その対象はエネルギーだけでなく、交通や行政サービス等のソフトインフラも含まれております。この視点を本学においても取り入れ、省エネルギーを軸として大学の様々な活動を支援する「ICTスマート大学」を目指していきます。

これらの取り組みをはじめ、2026年の開学100周年を見据え、大学の使命であります教育、研究、社会貢献の機能を最大限に発揮できるような環境の整備充実を図り、大学全体で国際的に活躍できる人材の育成に力を注いでいます。

本学では、2002年6月に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、以来12年間にわたり、環境マネジメントシステムの整備充実に向け、学生・教職員に対する様々な環境

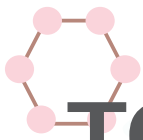
教育を実践し、環境配慮のマインドを醸成してきました。これらの成果を活かし、2014年6月、名城大学独自の環境マネジメントシステムである「Meijo-EMS」を構築し、自主的な環境保全・環境配慮への取り組みを推進しています。

2014年12月に本学の赤崎勇終身教授が青色発光ダイオード(青色LED)の発明でノーベル物理学賞を受賞され、その研究成果は人類の生活に大きな利便性をもたらすとともに、省エネルギー効果により地球環境保全にも大きく貢献しています。また、2016年度においても文部科学省による私立大学研究ブランディング事業(世界展開型)の支援対象に「青色LEDを起点とした新規光デバイス開発による名城大ブランド構築プログラム」が選定されてました。同終身教授の偉業を誇りに思い、教育研究の諸活動においては、より一層、良好な環境づくりに努め、その成果を社会に還元していく所存です。

現在、新しい国際ルールでの温室効果ガスの削減、再生可能エネルギーの実用化など、地球環境への関心が高まる中、本学においても、様々な機会を通じて環境問題について学び、グローバルな視点で課題解決ができる人材を育成していきたいと考えています。

本報告書は、2016年度の本学における環境への取り組みとその活動状況を取りまとめました。多くの皆様にお読みいただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。





# TOPICS

## カーボンナノチューブ発見による功績

### 飯島澄男終身教授のグループに 21 世紀発明奨励賞

大学院理工学研究科の飯島終身教授をはじめとするグループが、超高効率な単層カーボンナノチューブ（CNT、筒状炭素分子）合成法の発明の功績で、公益社団法人発明協会から2016年度の「21世紀発明奨励賞」を受けました。

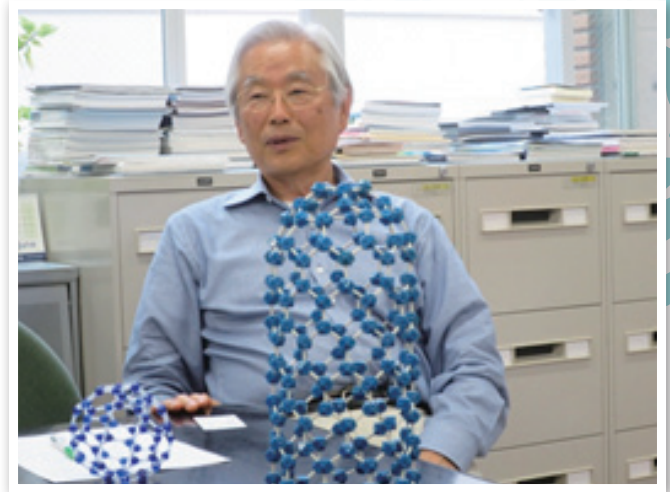
受賞グループは、飯島終身教授のほか、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）材料・化学領域ナノチューブ実用化研究センターの畠賢治研究センター長、湯村守雄首席研究員、Futaba Don Norimi（フタバ・ドン・ノリミ）CNT合成チーム研究チーム長、併せて、受賞団体である産総研の中鉢良治理事長にも「21世紀発明貢献賞」が贈られました。

表彰式は6月15日に東京で行われました。飯島終身教授は欠席しましたが、「産総研のグループでCNT実用化にかかわる開発に10年以上にわたって携わりました。2001年から15年までナノチューブ実用化研究センターの所長を兼務していた立場として、成果が認められてうれしい」とコメントしました。

### カーボンナノチューブ発見 25 周年 飯島終身教授 国際会議基調講演

飯島終身教授が1991年にCNTを発見してから25周年になります。これを記念した国際会「CNT25」が11月15日から18日まで、東京で開催されました。開会セッションは初日に東京都千代田区のイイノホールで行われました。

基調講演者の紹介で、飯島終身教授のナノサイエンス関係の論文の引用が増えている現状が示されました。飯島終身教授は「Discovery of carbon



飯島澄男終身教授

nanotubes and beyond」(CNT 発見後とその後)」と題して講演しました。

### 附属高校で高大接続講座講演

飯島終身教授は6月22日、附属高校高大接続講座として「Observation is important in science. How did I discover carbon nanotube? (科学において観察は重要。私はどうやってカーボンナノチューブを発見したか)」を講演しました。飯島終身教授は自分の研究者としての歩みを紹介し、科学史、ノーベル賞受賞史を概説しながら、科学研究での観察の重要性を説きました。



国際会議で基調講演される飯島終身教授

# 皆さんへご協力依頼

名城大学は、環境にやさしいキャンパスを目指しています。皆さんも学内の廃棄物の分別や節電にご協力をお願いします。

## 天白・八事・ドーム前キャンパスでの廃棄物の分別方法

### 可燃ごみ（燃やせる物）

生ごみ、ティッシュ・ペーパー、紙製のトレイ、写真、ゴム製品（輪ゴムなど）、プラスチック製容器、プラスチックフィルム、カップ麺などの容器、ボールペン、鉛筆、ストロー、菓子などの包装紙、箸、プラスチック製スプーン、再資源化できない紙くず、汚れたプラスチック製品等



#### - 留意事項 -

- 濡れたもの、水分を多く含んだものは、できるだけ脱水して、学内に設置してある回収ボックスへ投入してください。
- 異物が付着していない紙くずは、紙資源として再資源化してください。

### 不燃ごみ（燃やせない物）

食品や化粧品が入っていたビン類、ガラス、陶磁器、金属類、小型家電等



#### - 留意事項 -

- 鋭利な物（割れたガラス類や刃物、先の尖ったもの）は、新聞紙などで厳重に包み、中身が危険なものであることを表示し、安全を確保してください。

### ペットボトル

飲料水が入っていたペットボトル



#### - 留意事項 -

- キャップ、ふたを取り外し、中を空にしてください。

### ビン、缶

空き瓶、空き缶・・・飲料用、飲食用

薬品が入っていた容器は、対象外



#### - 留意事項 -

- キャップ、ふたを取り外し、中を空にしてください。

### 紙資源

コピー用紙、雑誌、書籍、ノート、カタログ、パンフレット、新聞紙、官製はがき、封筒（窓付き封筒は下記を確認）、チラシ、紙製のフラットファイル（留め具は除くこと）、紙製菓子箱、コピー用紙を包んでいる茶色い紙、牛乳パック（中を洗浄し、切り開いてスーパーなどへ）



#### - 留意事項 -

- ドーム前キャンパスについて**
- キャンパスの構造上、古紙回収や機密文書の一齐回収は行いません。
- 廃棄する場合は、ドーム前キャンパスのルールに従ってください。

窓付き封筒について：窓がプラスチックフィルムの場合は、窓の部分を取り除いてください。  
窓の部分が半透明の紙の場合は、そのまま紙資源として処理してください。

廃棄方法が判らない不用品を廃棄する場合は、複数の法律に関連する場合がありますので、各学部の事務室経由で総務部へ確認してください。

## 紙のリサイクルについて

リサイクル可能な紙資源は、共通講義棟のホールや特定箇所に設置された紙資源回収ボックスに投入してください。

### リサイクル可能な紙

コピー用紙、雑誌、ノート、カタログ、パンフレット、新聞紙、厚紙、はがき（樹脂コーティングしてあるものは対象外）、封筒（窓付きについては前ページを確認）、チラシ、紙製菓子箱（平らに広げる）、コピー用紙を包んでいる茶色の紙、

### リサイクル不可能な紙

写真、油紙、トレーシングペーパー、紙コップ、付箋、粘着テープが付いたもの、ティッシュ・ペーパー、カーボン紙（含むノンカーボン紙）、圧着ハガキ、ラミネート加工した紙、牛乳パック（前ページを確認。本学では回収対象外）

リサイクルの可否が判定できない紙資源は、各学部の事務室経由で総務部へ確認してください。

## 環境配慮方法について

節電	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷暖房の適正な温度設定</li> <li>使用しない時の、教室・研究室・トイレの消灯</li> <li>使用しない時の、パソコンの電源 OFF</li> </ul>
節水	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験時の必要以上の水量に注意</li> <li>手洗い時の必要以上の水量に注意</li> </ul>
省資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>裏紙の有効活用</li> <li>両面コピーの推進</li> <li>不要コピーの撲滅</li> <li>予備印刷の削減</li> </ul>
削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>3Rの周知徹底</li> <li>分別廃棄の徹底</li> <li>紙資源のリサイクル推進</li> <li>持ち込みごみの持ち帰り徹底</li> </ul>

3Rとは、Reduce（発生抑制）、Reuse（再利用）、Recycle（再生利用）の3つのRの総称です。

## 産業廃棄物について

産業廃棄物とは、法人の業を営む上で発生した廃棄物で、法的手続きが必要なものです。産業廃棄物の中には、特別な管理が必要なものがあります。

- 産業廃棄物は、粗大物に該当する計測機器、実験器具や法定の基準に満たない廃油、廃液、廃薬品などがあります。
- 特別な産業廃棄物は、感染性廃棄物、一定の基準を超える廃油、廃液、廃薬品などがあります。

### ◆産業廃棄物の種類

廃プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、粗大物、廃油・廃液・廃薬品、廃乾電池、感染性廃棄物

### ◆有価物

廃棄するパソコン及び周辺機器並びに測定機器などは、貴金属等が含まれているため、有価物として処理しています。

※有価物：経済上価値のある有体物。他人に有償で売却できる物。

## 家電リサイクルについて

産業廃棄物や一般の廃棄物とは別の法律で管理されています。

### ◆対象となる家電品 ※業務用機器は対象外です。

- テレビ
- 冷蔵庫、冷凍庫
- 洗濯機、衣類乾燥機
- エアコン

## 自動販売機の紙コップ

学内に設置してある自動販売機の一部には、デポジット機（紙コップ回収専用機）が設置してありますので、その中に投入してください。

## 駐輪場について

本学が提供している駐輪場は、通学用自転車を置く場所です。不用品な自転車やごみを放置しないでください。

※天白・八事キャンパスでは、原動機付き自転車も自転車に含みます。



# 環境の取り組み

## 名城大学環境方針

### 環境理念

名城大学及び名城大学附属高等学校は、環境基本法を始めとする環境法令を順守し、社会から要請される「持続的に発展可能な社会の形成」に応えられる人材の育成と研究に努めます。

### 環境方針

1. 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
2. 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組めます。
4. 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を遵守し、汚染の予防に努めます。
5. 環境方針を達成するため、名城大学が独自に策定した環境マネジメントシステム (Meijo-EMS) を構築・運用します。
6. 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムを含む環境保全活動の継続的な改善を図ります。
7. 環境方針はインターネットホームページで公開します。

2017年4月1日 名城大学 学長 吉久 光一

## 2016年度の環境活動

### 農学部施設周辺で美化活動

農学部の3、4年生と教職員が一丸となって日頃の教育・研究活動で使っている施設周辺の美化作業を行う「working bee (働き蜂)」が4月22日、天白キャンパスで行われました。環境美化の大切さをあらためて認識し、学びの場への感謝の気持ちを示すため、毎年4月とオープンキャンパス前に続けている取り組みです。

参加者は研究実験棟Iと9号館、温室などの周りで草を取り、竹ぼうきで掃く作業を1時間行い、集まった草は軽トラック4台分になりました。



### 農学部附属農場で収穫祭

本学農学部の収穫祭が10月22日、附属農場内の水田で行われ、小笠原日出男理事長、吉久光一学長ら340人が稲刈りに精を出しました。開会式の後、稲刈りの方法について説明が行われ、黄金色に実った稲を一齐に収穫しました。稲刈り終了後の昼食は、農場産の新米のおにぎり、応用微生物学研究室のみそで味付けした豚汁、農場産の卵を使ったゆで卵といった地産地消メニューがふるまわれました。心地よい汗を流した参加者は、おにぎりをほおぼって恵みの秋を実感しました。



## タイ・ランパン県でチークの植林に参加

本学の高・大・院連携による地球環境改善プログラムが8月4～11日、タイ北部のランパン県で行われ、総合研究所の高倍昭洋教授の引率により大学院生と学生12人が参加しました。同プログラムは2006年からタイ森林工業機構との連携で実施されており、チークの植林を行っています。チークは世界三大銘木の1つで高級家具や船舶などに使用されており、植林により世界の森林伐採防止や、二酸化炭素増加による地球温暖化防止に貢献することが期待されている樹木です。参加した学生は「1本のチークを植林するために、雑木林の伐採、苗の育成、硬い地面の掘削、雑草管理など、様々な労力が必要で大変なことがよくわかりました」と感想を話していました。

学生らは植林後、同県の高校で行われた歓迎会に参加し、地元の高校生とともにタイ北部に伝わる「ランナー・タイ王国」時代のダンスを踊るなどして交流を深めました。



## 打ち水大作戦 in 名城

天白キャンパスの共通講義棟南前で7月6日、「打ち水大作戦in名城」が実施され、学生、教職員など100人以上が参加しました。

環境保全委員長の久保全弘副学長が「自然はなかなかコントロールできませんが、それに向き合い生きていかなければなりません。学生は定期試験が控えています、打ち水で暑さを吹き飛ばし、良い成績を残してください」と呼びかけた後、ボランティア協議会の黒川源喜さん(人間学部3年)の掛け声で、一斉に打ち水がスタートしました。前日から降り続いた雨により涼しい気候でしたが、開始時に24.8℃あった気温は20分間の打ち水を終わると24.2℃まで下がりました。参加した学生からは「涼しくて気持ちよかった」「楽しかったので次回も参加したい」などの声が聞かれました。



## キャンドルナイト

学生ワーキンググループは、大学祭2日目の11月4日に天白キャンパスのサンクンガーデンにおいて、「キャンドルナイト」を開催しました。冬の始まりを感じさせる寒い夜でしたが、大学祭に続いて多くの方が会場に集まりました。

キャンドルナイトは2009年度から実施しており、大学祭とのコラボ企画としては、今年度で5回目の取り組みです。当日は午後6時30分に点灯を開始し、大学祭のテーマである「CONNECT」を「ECO」の文字とともに描き、幻想的な空間で省エネルギーを訴えました。キャンドルに加えて、ろうそく型LEDライト、青色、黄色、白色のLEDライトが照らす中、アカペラサークル「はもりね」が「いい日旅立ち」や「ひまわり」などを披露し、集まった観客を魅了しました。





# 安全衛生/防火防災の取り組み

## 名城大学自然災害リスク軽減 研究センター

天白キャンパスの研究実験棟Ⅱ構造耐震実験室で7月31日、日本建築学会東海支部が主催し名城大学自然災害リスク軽減研究センターが共催した「2016年度・親と子の都市と建築講座」を開催しました。小学校高学年の児童と保護者9組20名に、名古屋市からオブザーバーが参加し、「建築から考える災害への備えと体感的学習」をテーマとして、直下型地震の体感、窓ガラスの飛散防止フィルム貼りの実演・体験などが行われました。参加者からは「地震の揺れは予想を超える大きさでした。実際には不意打ちで来るので、備えの重要さが身に染みました」「実際に手を動かしてみると、フィルム貼りや耐震対策のコツが解って役に立ちました」「具体的な体験により、防災意識が向上しました」など感想が寄せられました。



## 防火・防災訓練 ナゴヤドーム前キャンパス

10月3日、学生と教職員を対象に防火・防災訓練が行われました。講義時間内に名古屋市内で震度6弱の揺れを観測する地震が発生した想定でシミュレーション訓練を行いました。教職員による自衛消防組織の立ち上げ、建物の被災状況の確認・情報収集、学生の避難・安否確認を行いました。無線機の使用や非常放送設備の活用など、本番を想定した訓練に参加者は緊張感を持って臨みました。名古屋市東消防署の協力を受け、応急手当ての際の担架による搬送方法や初期消火活動として消火器を使用した実技訓練を実施しました。訓練終了後、東消防署長は「大災害は自分に関係ない、この地域では起きない」と思っていた人たちが被災し大きなショックを受けている事実を語り、「今日の訓練を役立ててほしい」と訴えました。



### 編集後記

本学における環境配慮の活動は、ISO14001の認証を返上後、独自の環境マネジメントシステムとして構築した「Meijo-EMS」に基づき行われています。全学をあげて日常的に環境配慮の活動を行うことにより、学生や教職員の環境への配慮や関心が高まることを期待しています。

本学の「Meijo-EMS」は、環境マネジメントの基本に立ち返り「紙」、「ごみ」、「電気」の削減という馴染みのある取り掛かりやすい事柄を目標とし、達成のための手段として環境配慮の活動を進めていきます。

本ガイドは、関係各位のご協力で無事発行することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

総務部 総務・環境安全グループスタッフ 一同

### お問い合わせ先

#### 名城大学

総務部 総務・環境安全グループ  
〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地  
TEL : 052-838-2007  
FAX : 052-833-9494  
URL : <http://www.meijo-u.ac.jp/>  
E-Mail : [ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp](mailto:ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp)

※詳細は下記をご覧ください。

名城大学環境ホームページ

<http://www.meijo-u.ac.jp/about/action/environment/>